

## アンコール文化遺産保護共同研究

文化庁では、平成5年度から標記の共同研究事業を開始し、本年度はその3年目に当たる。本事業は1. カンボジアにおける共同研究と、2. 日本における共同研究のふたつの側面を持つ。

### 1. カンボジアにおける共同研究

本年度は7月と3月の二回にわたり、当研究所の研究員を現地に派遣し、現地の研究者と協力して共同研究事業を行った。

7月には西村・花谷・杉山の三名を派遣した。昨年度3月に初めてカンボディア現地での遺構探査を試みたが、3月の乾期においては、特に電気探査で電流の流れの悪さによる探査のやりにくさが指摘された。そのため、今回は雨期のはじめの頃で、雨もそれほど激しくなく、かつ地面も幾分か湿った状態を得るために、7月に調査を行った。

バンテアイ・クデイ遺跡においては、上智大学の調査隊と協力して小規模な発掘調査を行ない、これまでに確認されていた前柱殿南建物の基壇規模を明らかにすることができた。

3月にも上記同様、3名の研究員を派遣した。7月の調査で、磁気探査と電気探査については、一応の成果を上げることができたことから、今回は地中レーダー探査を試みた。その結果、スラ＝スランの西側において、明瞭な反応が認められた。探査範囲の北側では、古くにフランス極東学院による発掘調査が行われており、スラ＝スランの西側堤に沿って南北のラテライト石組溝が検出されている。今回の反応はこの溝の南延長部と考えられる。

昨年度発見されたクメール陶器の窯跡であるタニ窯跡群の踏査を行うとともに、磁気探査も行った。あわせて、関連陶器資料収集の一環として、シエムリアップ市内のワット・ポー寺院所蔵土器の調査を行った。

### 2. 日本における共同研究

A. 若手研究者の招聘 王立芸術大学考古学部を卒業したエア・グリス氏とブラック・ソナラ氏の2名を、平成7年10月5日から12月28日まで招聘した。発掘現場実習・測量実習・遺跡探査実習や、奈良周辺をはじめ九州各県の遺跡調査修復現場の視察を行った。

B. 中堅研究者の招聘 今回はプノンペン王立芸術大学講師であるとともに、アンコール地区の遺跡保護と開発を管轄するAPSARAの顧問であるアシュリー＝トンプソン氏を、平成7年12月6日から12月18日までの招聘した。研究所の活動や周辺での遺跡の調査保護活動を視察するとともに、氏の要望で、茨城県の水戸彰考館に所蔵される祇園精舎図とよばれる、アンコール＝ワットの古絵図の調査を行った。

(杉山 洋)



バンテアイ＝クデイ 西北隅での探査



スラ＝スラン 西側での探査